

地盤調査業務特記仕様書

1 業務の目的

本業務は、大泉町庁舎建設基本設計・実施設計等業務委託（以下「本業務」という。）に必要な耐震構造を前提とした地盤調査を実施するものとする。

2 調査概要

(1) 調査位置

敷地地盤全体および建物の予定位置

(2) 敷地地盤調査内容

- ①機械ボーリング 5箇所
- ②各種原位置試験 1式
- ③室内土質試験 1式
- ④調査総合解析 1業務
- ⑤解析業務 1式

(3) 準拠指針、基準等

- ①関連 J I S 規格
- ②国土交通省：地盤調査業務共通仕様書（最新版）
- ③地盤工学会編：地盤調査の方法と解説、地盤材料試験の方法と解説、建築基礎設計のための地盤調査計画指針

3 調査項目

今回の地盤調査では、敷地全体の地層構成と設計・施工に必要となる地盤情報を把握することを目的としてボーリング調査および各種試験を実施する。

(1) 機械ボーリング

機械ボーリングは地層構成の把握、支持層および工学的基盤の確認、並びに各種原位置試験や試料採取のために実施する。

ボーリング地点は、敷地全体を網羅するように5地点とする。

なお、設計に影響するような支持層の傾斜が確認された場合にはボーリング地点を追加する可能性がある。

(2) 標準貫入試験

敷地地盤に分布する地層の硬さや締まり具合の指標となるN値の測定を行う。

試験で採取された土質試料は、地層判別に利用する。

N値50以上の層厚を、5m以上確認を基本とし、堀止め確認は協議による。

(3) サンプリング

土の物理特性、強度特性および動的変形特性を把握するために実施する、土質試験に供する乱れの少ない試料を採取する。

採取に使用するサンプラーは土の種類や硬さに応じて適宜選択する。

(4) 孔内水平載荷試験

地盤の水平方向の変形特性を把握するために実施する。

結果は杭基礎設計時の横方向地盤反力係数（K値）算出に利用される。

(5) 室内土質試験

地盤の物理特性、せん断特性および動的特性を把握するために実施する。試験にはサンプリングで採取した乱れの少ない試料を供する。

物理試験	対象土の基本的な物性を求める試験。	
力学試験	一軸圧縮強度試験	土の一軸圧縮強度を求める試験。支持力検討や地耐力の算出などに利用される。
	圧密試験	土の圧密特性を求める試験。建屋荷重や上載荷重等による圧密沈下の検討に利用される。
	三軸圧縮強度試験	土の内部摩擦角、粘着力を求める試験。粘性土地盤の安定や支持力算定などに用いられる。

4 調査数量

(1) 調査内容一覧

- ①機械ボーリング 5箇所（総掘削延長：200m）
- ②標準貫入試験 195回（深度1m毎）
- ③孔内水平載荷試験 4回 LLT（プレッシャーメータ試験）
- ④サンプリング 1本（二重管式サンプリング1本）
- ⑤室内土質試験
 - 物理試験、力学試験
 - 土粒子の密度試験、含水比試験（各8試料）
 - 粒度試験（フルイ+沈降：8試料）
 - 液性・塑性限界試験（各1試料）
 - 湿潤密度試験（1試料）
 - 圧密試験（1試料）、三軸圧縮試験(UU)（1試料）
 - 一軸圧縮強度試験（1試料）

(2) 変更等について

調査位置や調査数量については、発注者と協議のうえ、決定するものとする。

5 特記事項

本業務を再委託する際は、下記の要件を満たす者とする。

- (1) 直近5年以内に官庁工事の地盤調査・模擬地震波の作成実績が1件以上あること。